

既婚女性の余裕度の年代変化とその家族観

「年齢別にみた女性の意識と行動調査 '93」

「年齢別にみた男性の意識と行動調査 '92」

§ 既婚女性の余裕はまず時間から、ついで金銭的余裕へ

既婚女性の時間的な余裕が40代前半から生じている。
しかし、経済的な余裕は後半まで得られない。

§ 30代後半から始まる「妻の生き方を大切に」の増加

一方「理想の夫婦像」をみると20代から40代までは年代差はなくなり、夫を立てたり、従うべきだと考える人は2割以下である。20代は7割以上が家事などを分担して協力したいと考えているが、育児が大変である30代前半から既に減り始め、40代では半数以下に減ってしまう。代わりに「妻の生き方を大切に」がトップになる。これに伴い「家庭の機能」も「休息といこいの場」とする人が30代後半をピークに7割近くにのぼる。

§ 93年10月発表のレポート「現代既婚男性の余裕度を考える」では

30代前半の男性は全年代中で最も忙しく働きながら、子供の成長を生きがいにして新しい夫像を示していた。だがそれを受け止める妻たちは、この時期から「妻の生き方を大切に」する夫婦像の形成を既にはじめているようである。30代後半から40代にかけて男性の疲労がはっきりと表れていたが、妻たちも「家庭の機能」の選択のトップに「休息・いこいの場」をあげている。妻たちは疲れている夫の休息を保障しつつ、40代から手に入れる時間と金銭的な余裕を、「自分の生き方」作りに投入しようとしている。

94年8月25日

ポラ文化研究所

担当 岡林, 高谷

調査概要

年齢別に見た女性の意識と行動調査' 93

1、対象者：首都圏に住む女性（エリアサンプリング法による抽出）

<u>年齢と属性</u>	<u>人数</u>
高校生	75
大学生	75
19-24歳	75
25-29歳(未婚)	75
25-29歳(既婚)	75
30-34歳(未婚)	50
30-34歳(既婚)	75
35-39歳(未婚)	50
35-39歳(既婚)	75
40-44歳	100
45-49歳	100
50-59歳	100
60-64歳	75
合計	1000

2、実施時期：93年7月

3、調査方法：個別訪問面接聴取および留置法の併用

年齢別に見た男性の意識と行動調査 ' 92

1、対象者：首都圏に住む男性（エリアサンプリング法による抽出）

<u>年齢と属性</u>	<u>人数</u>
高校生	75
大学生	75
19-24歳	75
25-29歳(未婚)	75
25-29歳(既婚)	75
30-34歳(未婚)	75
30-34歳(既婚)	75
35-39歳(未婚)	75
35-39歳(既婚)	75
42-45歳(団塊)	100
46-49歳	100
50-59歳	100
60-64歳	75
合計	1050

2、実施時期：92年7月

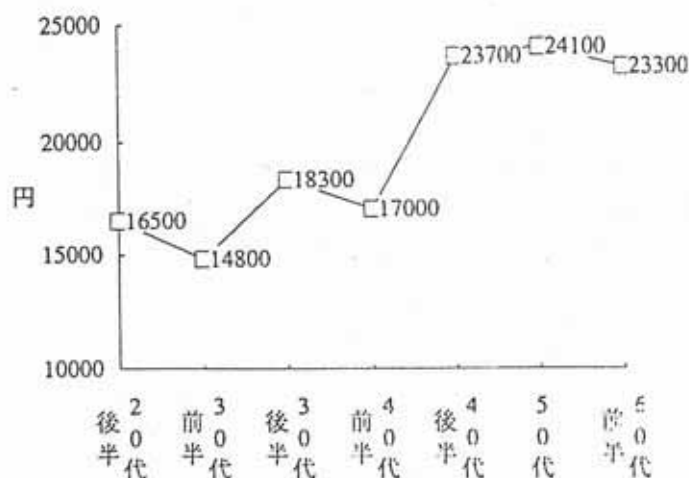
3、調査方法：個別訪問面接聴取および留置法の併用

1) 既婚女性の余裕度の年代変化

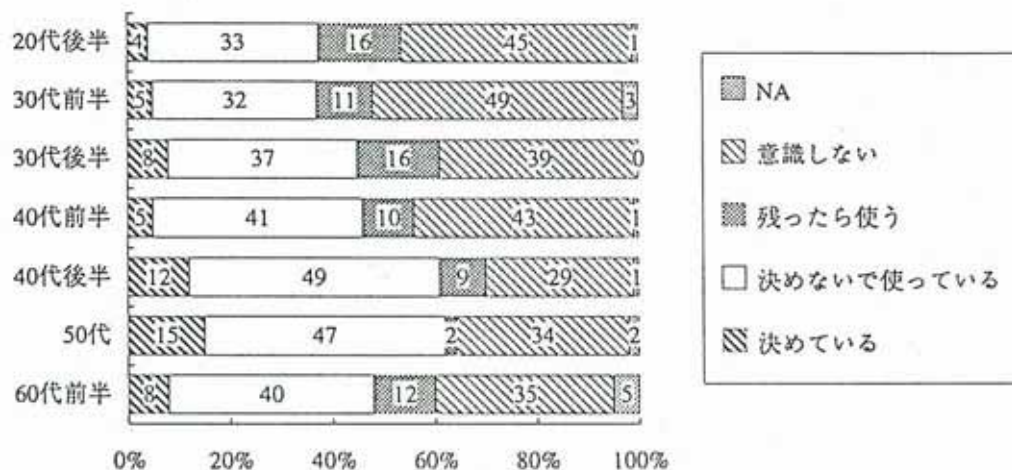
(1) 金銭面

こづかいの額をみると40代後半から急激に余裕が生じている。それは端的に「おしゃれの満足度」となって現れている。また、「こづかい」の定義もいろいろ議論があるところだが、現在では「意識する」と言うことが余裕の表現となっているがわかる。

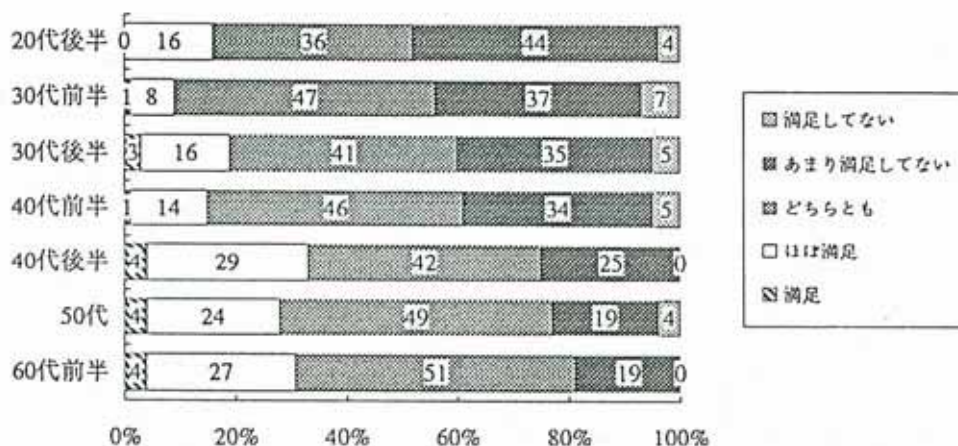
1カ月のこづかいの額



こづかいの決め方



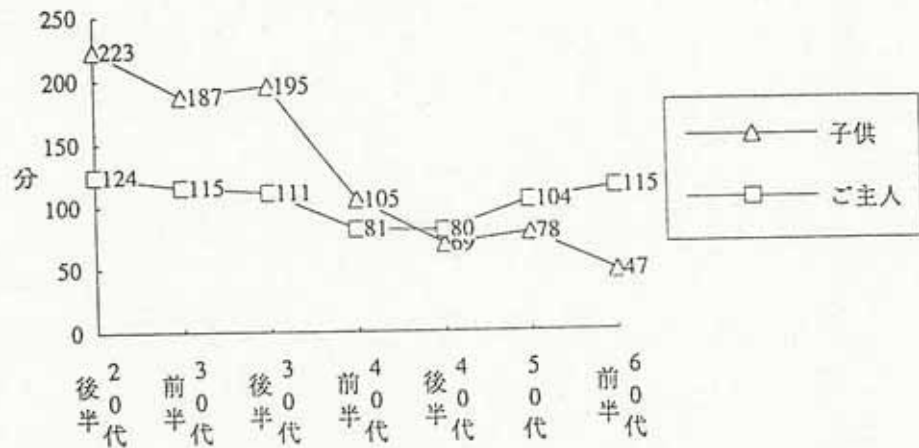
おしゃれへの満足度



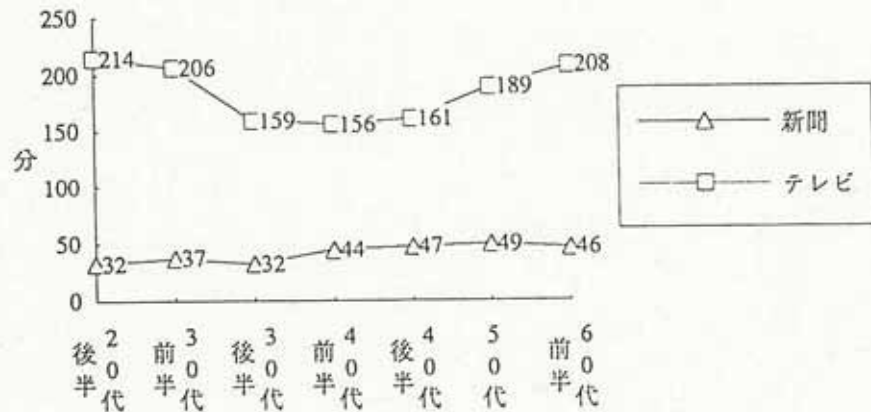
(2) 時間面

40代前半から子供への手がかからなくなることが会話時間の減少から推定される。その事は新聞をよむ時間やスポーツの継続率の増加に現れてくる。テレビをみる時間はむしろ30代後半から減少している。これは余裕のできた時間を家の外で過ごし始めるからであろう。

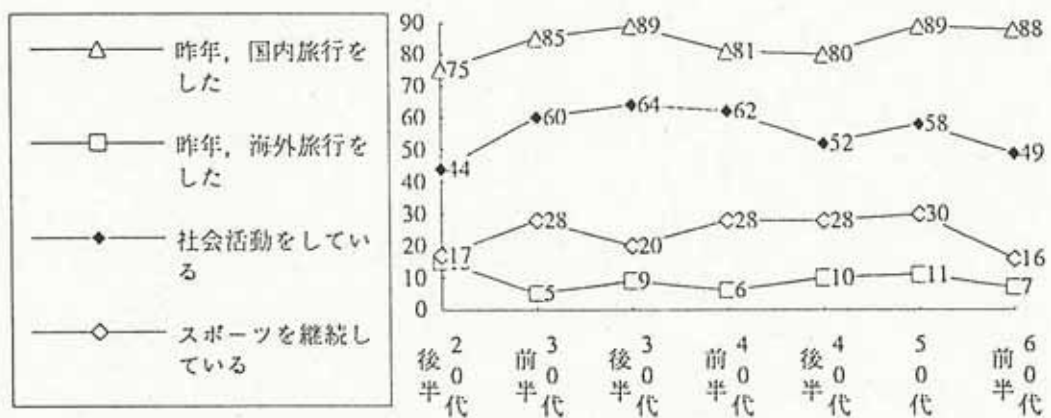
家族との会話時間 (1日の)



メディアに接する時間 (1日の)



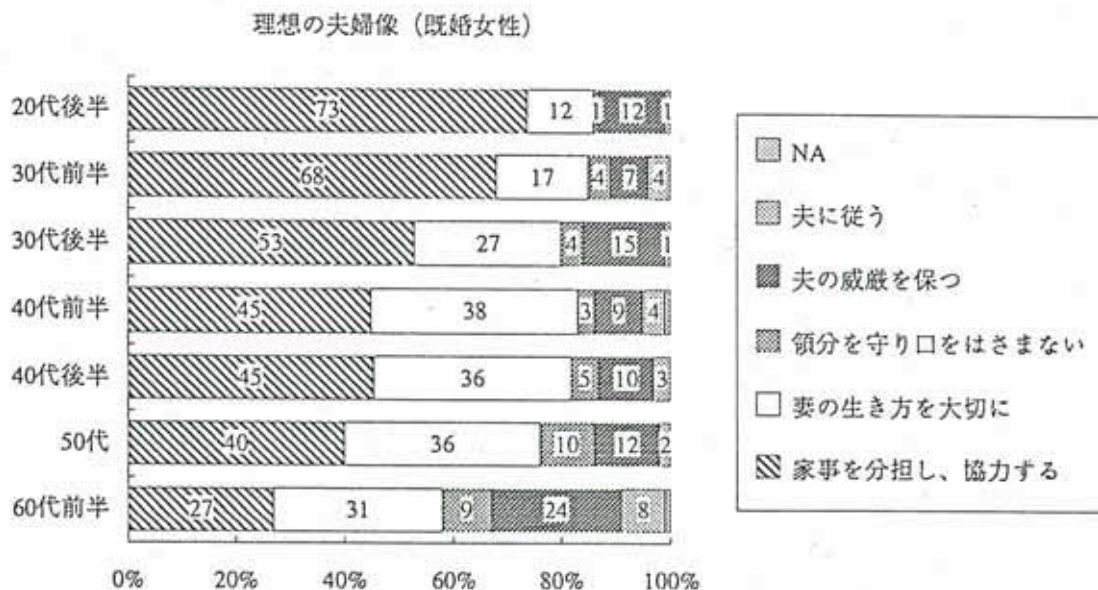
諸活動への参加率



2) 既婚女性の家族観の年代変化

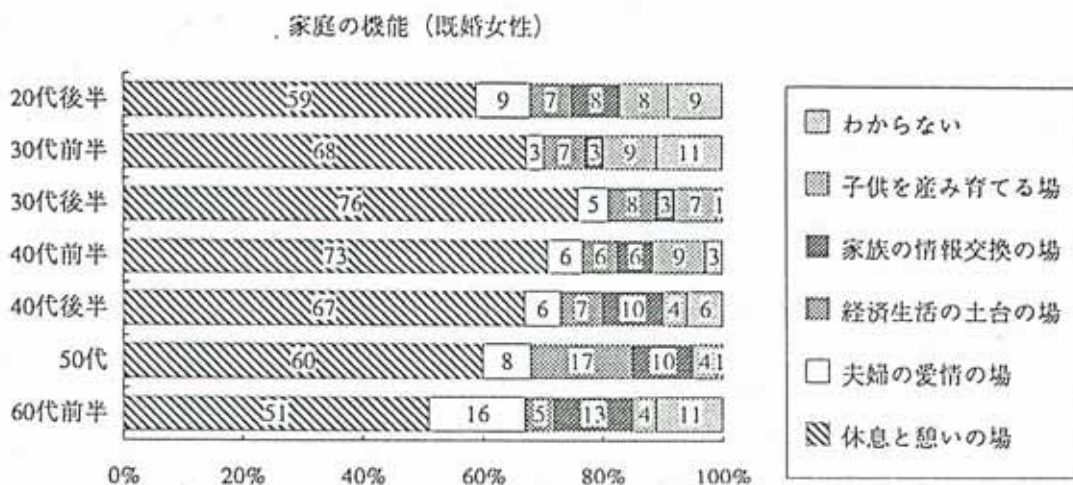
(1) 理想の夫婦像

夫を立てたり従ったりすると考えているのは、2割以下である。さらに20代後半では7割を越えている「分担協力」が30代に入ると減り、替わって「妻の生き方を大切に」が増える。これは次頁に示す男性のデータと異なっている。男性では40代前半で「分担協力」が1割ほど減り「妻の生き方を大切に」に変わる他は年代の変化はあまりない。



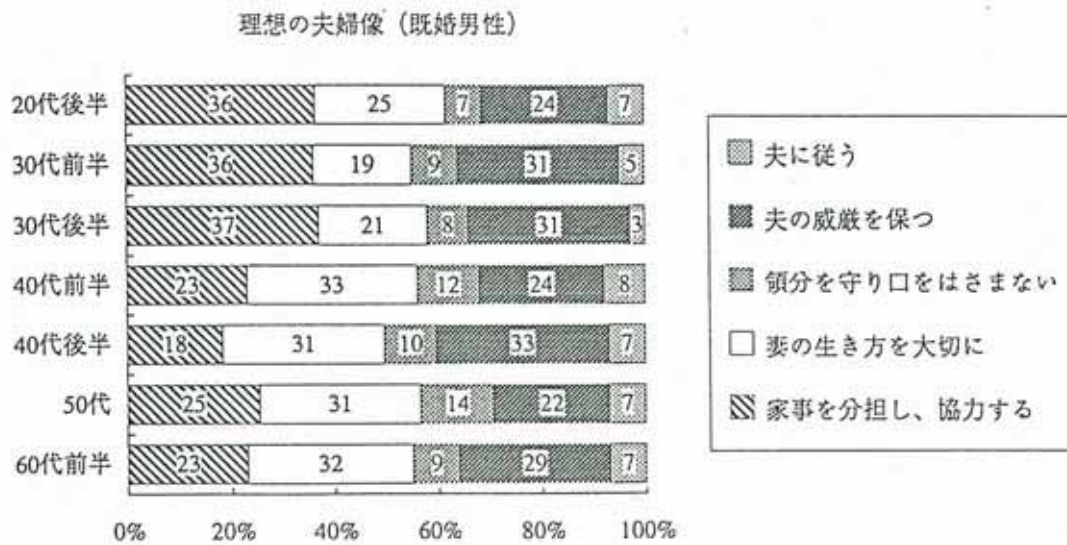
(2) 家庭の機能

30代後半から50代にかけては「休息・憩いの場」が圧倒的多数である。20代後半に求められた多様な家庭の機能のイメージが回復するのは60代に入ってからのものである。これは次頁にあげた男性のデータと若干のずれを示している。男性では40代後半に既に20代と同じような家庭の機能のイメージが回復している。

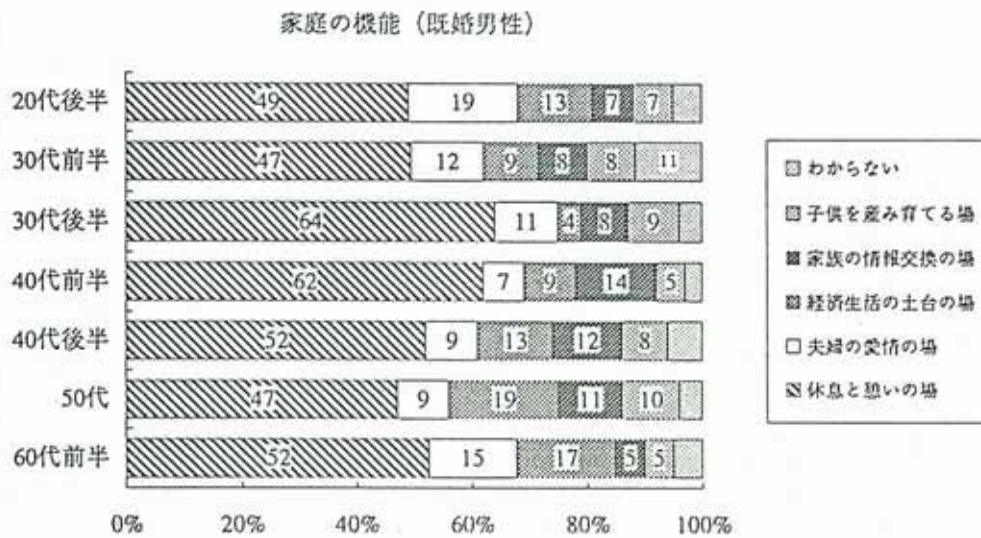


(3) 参考：既婚男性の家族観の年代変化

(1) 理想の夫婦像



2) 家庭の機能



以上